

第十四回与謝野町蕪村顕彰全国俳句大会

前書俳句の部 入賞作品

与謝野町俳句大賞

関西学院大学書道部 書道パフォーマンス
春風へさつと鼓舞の字立ち上がる

大阪府大阪市
古田几城

京都府知事賞

天橋立

雪の橋雪より雪に架かりたる

兵庫県神戸市
杉岡壱風

与謝野町長賞

先に逝つたら、承知しないよ

延命水入り水鉄砲君に擊つ

東京都国分寺市
守屋明俊

宮津ロータリークラブ会長賞

一人暮しだつた父の遺品

三軒に貰はれてゆく目高かな

兵庫県神戸市
平尾美智男

田中春生賞

救急待合室にて

椅子固し霜夜はすでに午前二時

京都府与謝野町
高岡茂代

山根真矢賞

奥能登に知人を訪へば

避難所に寝莫塵抱へてをりにけり

京都府京丹波町
本谷眞治郎

選評一覧

選者　田中春生　山根真矢

与謝野町俳句大賞

関西学院大学書道部　書道パフォーマンス
春風へさつと鼓舞の字立ち上がる

大阪府大阪市　古田几城

【田中】大学の構内。新入生歓迎の行事が催されているのだろう。書道部の学生が背丈を超えるほど大きな紙に

「鼓舞」と揮毫するパフォーマンスが行われている。

春風に掲げ上げられる、今現在の瞬間がダイナミック

に表されている。

【山根】何メートルもある大きな紙が持ち上げられた瞬間、「鼓舞」の字が「春風」に躍動したのだろう。学生の動きも溌剌としていて、観客を魅了したに違いない。現代的なイベントを句材に選ぶ作者の姿勢も、意欲的で前向きだ。

京都府知事賞

天橋立

雪の橋雪より雪に架かりたる

兵庫県神戸市　杉岡壹風

田中春生賞

【田中】雪景色の天橋立の姿が大胆に描かれている作品。白雪の降り積もったこちら側と向う側とをつなぐ雪の天橋立。一句のなかに「雪」の字が三つも含まれていて

【山根】山から望む「天橋立」の全景を、「雪の橋」に見立てたと解釈した。陸の「雪」の白さを引き立たせているのは、海の色であろう。青色、鈍色、茜色など、何色を想像するかは読者の自由だが、色彩の対比が美しい俳句である。

田中春生賞

救急待合室にて

京都府与謝野町　高岡茂代

【田中】救急車で搬送される人に付き添って来た作者。病院に着いて何時間もガランとした待合室で待ち続ける。もともと固かつた待合室の椅子も一層固く冷たく感じるようになってしまった。付き添う人の切なさが伝わってくる。

山根真矢賞

奥能登に知人を訪へば

避難所に寝莫産抱へてをりにけり

東京都国分寺市　守屋明俊

【田中】前書が会話調のユニークな作品。愛情の表現が禁止の命令口調である点も、それに拍車をかけているようだ。

延命水入り水鉄砲君に撃つ
延命水入り水鉄砲君に撃つ
先に逝つたら、承知しないよ

【山根】「延命水」と呼ばれる湧水は各地にある。飲めば長生きれない。

きできるという水で、「水鉄砲」を楽しんだというのは、意外性がある。前書から「君」への愛情が伝わる同時に、「君」は病身かもしれないと思われ、胸が詰まった。

宮津ロータリークラブ会長賞

一人暮しだつた父の遺品

三軒に貫はれてゆく日高かな

兵庫県神戸市　平尾美智男

【田中】ずっと大事に飼っていた日高。きっと、一人暮しの時間を豊かなものにしてくれた日高。貫られてゆく今も、飼主が亡くなつたことも知らず元気に泳いでいる。淡淡と具体的な事実だけを述べて、深い思いが伝わる作品である。

【山根】急逝されたため、「日高」が遺されたのだろう。三人ではなく「三軒」と表現した「軒」の語が巧みで、お父様がご近所付き合いを大切にされていた様子が偲ばれる。作者も、貰い手が見つかって、安堵したに違いない。

前書俳句の部 入選一覧

田中春生選

賞候補

玄関に母在はすごと夏帽子 山口県周南市 加浦百合子
生家を売り、墓仕舞ひもして
故郷に旅寝して見る揚花火 大阪府高槻市 瀬野 浩

誰とでもすぐ仲良くなれる嫁

乳母車預けて嫁の盆踊 大阪府堺市 白木原玲子

小児病棟の大型ロボットアイボ

抱き撫づるアイボと共に春待つ子

京都府城陽市 倉本節子

声交し岳人霧の中へ消ゆ 東京都東久留米市 井坂 宏

加悦野田川の親水公園にて

岩の間の稚魚の群れ違う跣足の子 大阪府豊中市 東村美紀

近所の子と一緒に食べた団子が懐かしい

縁台の団子取り合ふ今日の月 香川県高松市 重岡 聖

佳 作

農継ぐか迷っていた伴が決心してくれた

娘継ぐと決めて伴が毛虫焼く 神奈川県厚木市 北村純一

嫁いだ娘の残したお雛様を今年も飾る

オルゴールの螺旋巻きひとり雛飾る 東京都江戸川区 野津早苗

涼しさが待たれます

樹下涼し夜風の動きはじめけり 大阪府東大阪市 土田善子

高校野球最後の夏の地区大会

逆点のスコアボードへ夏燕 福井県高浜町 神谷美穂

おかげさまでラジオ体操無欠席

吾を起す猫のルーチン冬の朝 千葉県千葉市 岩崎高紀

限界集落(山形県滝の沢)

秋うらら人間だけがゐない里 大阪府大阪市 今井文雄

白寿の義姉の訃報届く

天寿とや泰山木は花を得て 大阪府堺市 井上昌子

佐藤愛子さんの本

新刊の著者は百歳読始 兵庫県赤穂市 矢野君子

スキユーバーで夜海面へ

浮上する海面一杯大満月 千葉県千葉市 起山正樹

難病克服後身体障害の身で杖を頼りに花見

花巡る一本の杖あるかぎり 神奈川県横浜市 多田学友

初恋

蚊帳吊草小さき約束交はし割く 奈良県奈良市 貞許泰治

追悼 堤 信彦先生

師よ来ませ菊の香の句座あけて待つ 山梨県市川三郷町 河西五十鈴

納屋の片隅に亡き父を見つける

いつの日か消えし軍帽終戦日 東京都町田市 米倉信山

俺も泣きたい

まるもじのインクの滲み秋深し 山梨県身延町 片田 旬

感謝の気持ちを光で伝える長岡花火客

独りじやないよ

初雪を転校生に教へけり 福岡県福岡市 松本逸朗

子供の頃には

素麵と西瓜と来れば次昼寝 京都府京都市 鍋倉正信

西瓜床作って亡った夫婦

夫婦逝き床だけ残るスイカ畑 山形県大石田町 柏倉ヤス子

平穏な日常に感謝

入れ替はり子の来る湯船終戦日 兵庫県宝塚市 田中美幸

江山文庫

山根真矢選
賞候補

与謝野駅開業100周年記念写真展より
花散るやSL走る宮津線 京都府与謝野町 植田宗一

父になりたかつた我にも父の日來
生涯独身の我が身

丹波千代川遺跡を望めば
新雪の幾何学模様かがやける

布団干し長子の帰還待ちし母 神奈川県鎌倉市 嶋村比呂樹

母になる娘の服にんとむし
兵庫県丹波篠山市 高岡董人

五人兄弟で作った餃子
それぞれの餃子の形こどもの日 兵庫県加古川市 東田学道

小児病棟の大型ロボットアイボ
抱き撫づるアイボと共に春待つ子

京都府城陽市 倉本節子

穗高から槍への尾根にて
声交し岳人霧の中へ消ゆ

東京都東久留米市 井坂 宏

加悦野田川の親水公園にて

岩の間の稚魚の群れ違う跣足の子 大阪府豊中市 東村美紀

近所の子と一緒に食べた団子が懐かしい

縁台の団子取り合ふ今日の月 香川県高松市 重岡 聖

佳 作

昨年、大内峰一字観公園の吟行会に参加して

キヤンプ場天橋立 一望に 埼玉県越谷市 小田越藻

中東戦争の悲劇

虎が雨涙に重くなる地球 大阪府池田市 西山岩乃

九十歳も過ぎると役に立たない自分!

もう當てにされぬ齡や大昼寝 北海道新得町 中島土方

子の結婚式で抗癌剤使う 妻の言う

私だけの写真とつと神戸の春 千葉県横芝光町 伊橋 徹

人道の港敦賀ムゼウムの展示写真を見て

百余名の孤児の笑顔や菊日和 千葉県松戸市 吉田寛子

八月十日に脳梗塞発症左半身麻痺となり20年

死ぬまでは癒えぬ片麻痺冷さうめん 滋賀県湖南市 岡崎秋胡子

東伊豆の小さな漁村にて

船虫や寄せ場のごとく屯せり 神奈川県大和市 荒井 修

戦後八十年

戦火なき国の桜を見上げたり 茨城県常陸太田市 豊健一郎

感謝の気持ちを光で伝える長岡花火客

花火果つ河原に揺るるスマホの灯 大阪府大阪市 岸本美知子

能登の復興は道半ば

ここに来て座つて話そう能登は春 福井県坂井市 辻川定男

存問のための轡かと思ふ 鹿児島県南さつま市 西村茂乃

糠床の熟れも上々今朝の秋 大阪府枚方市 澤田美那子

乳腺を焼かれ乳出ぬ夜寒かな 京都府南丹市 西田むつ子

与謝野町の友より茄子の絵手紙送られて

亡父の畑を片付ける

先行く吾子へ

花野風あの世この世を氣のままに 大阪府交野市 杉山和美

やむなく離れ暮した父母

父の流灯母の流灯寄り添はせ 京都府宇治市 古橋寛人